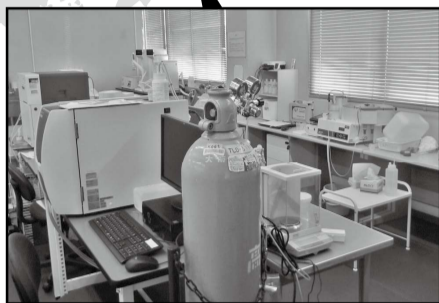


環境と健康

東部支所で水道水質検査スタート 災害時の県東部の分析拠点に

環境協本部
(広島市中区)

東部支所
(福山市山手町)



東部支所に新たに整備された水道水質検査室

東部支所は1970年に開所し、最初の15年間は、県福山保健所内に間借りして業務を行っていました。当初は学校保健や食品事業所などの衛生検査の検体および、井戸・水道水質検査や各種環境調査の検体を広島市の本部まで輸送して検査を行っていました。1985年11月に現在の山手町へ移転してからは検体・尿・ぎょう虫検査などの衛生検査を開始し、その後は、食品のカキ検査、その他食品微生物検査へ対象を広げて30年が経過しています。2018年の西日本豪雨の際には東部支所も被災し、約50%の床上浸水をしました。休日に職員による復旧作業を行い、週明けから業務を再開しました。当時、県内各地域では道路や水道インフラの被害により長期間断水が続く、個人所有の井戸水検査依頼や水道事業体から復旧のための臨時水質検査依頼が多くありました。通常はこれらの検体を車両で本部に輸送しますが、被災により山陽自動車道が通行止めとなったため、中国自動車道を迂回して、また急ぎの場合は新幹線を利用して対応しました。交通もそうですが、井戸水や水道水も生活に欠かせないインフラとして大切なものです。県内で大きな災害が起きた際に、本部と東部支所の交通が遮断されるケ-

「かんほきょうの森」で自然観察会

源流の沢で生き物観察



当協会は、2024年5月より東広島市福富町の森林で「かんほきょうの森」づくりに取り組んでいます。本連載では、「かんほきょうの森」の森林整備状況やイベントの様子などの紹介をしていきます。



沢で生き物を採集する参加者親子

務めました。

8月3日、「かんほきょうの森」で自然観察会を開催しました。自然観察会は、自然と触れ合い、自然を大切にする気持ちを持ってもらうことと実施したイベントです。当日は、東広島市と広島市在住の親子ら約20人が参加し、当協会のプロジェクトメンバーが進行と講師を

自然観察会のテーマは、「かんほきょうの森」が沼田川(東広島市から三原市に流れる川)の源流林のひとつであることから、沢の生き物観察としました。参加者は網やバケツを持って沢に入り、タカハヤやアカザ、オヤンマのヤゴなどさまざまな生き

物を採集しました。その後、講師の指導を受けながら、採った生き物を仕分けし、観察しました。生き物観察の最後には、同じ川でも場所によって環境や生き物

が異なることや、森が海や私たちの生活とながっていることを学んでもらいました。また、短い時間でしたが、「かんほきょうの森」の植物も観察しました。広島県天然記念

(経営企画課 八島聡美)

せんか 琴線歌

広島県がカキの生産全国といことは皆さんよく知っていますよね。クイズです。むき身の生産量は年間約2万トン程度です。では、身をむいたあとのカキ殻は何万トン出ているでしょうか?正解は約10万トンです。殻の方が重いんです!この大量のカキ殻が余って困っています。原因の一つとして、数年前から鳥インフルエンザの発生があり、鶏の飼料として売れる量が減ってしま

カキ殻はゴミ?

ったことが挙げられます。お歳暮などでは殻付きカキが使われています。皆さん、食べたあとの殻はどうしていますか?砕いて畑に混ぜ込めば、酸性土壌のpHを中和してくれます。特に使い道がない人は、燃えるゴミで出せます。カキ殻の主成分は炭酸カルシウムです。カキ殻を焼く温度を上げていくとどうなるでしょうか?3000~4000℃くら

いカキ殻の表面が焼けて、酸化カルシウムになります。これはアルカリ性なので、さまざまな用途に使えます。土壌改善材として使われているのはこのためです。700℃以上になると、全部燃えて灰になってしまいます。ですから、燃えるゴミでも問題ありません!私は、カキ殻をヘドロ化した浜にすき込んで、底質改善をしています。表面が酸化カルシウムになったカキ殻は、猛毒な硫化水素などを瞬時に酸化して消滅させてくれます。これによって、生き物がいなくなった浜に生き物が戻ってきます。それらの生き物は魚の餌となり、魚が増えます。安芸津の風早干潟に続き、廿日市の地御前の干潟でもプロジェクトを始めました。浜での環境学習には是非いらしてください。改善の効果を実感できます。

(流域環境再生センター所長 山本民次)



一般財団法人 ~みんなの生命をまもりつづけたい~
広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

基本理念

みんなの生命(いのち)をまもりつづけたい。
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、持続可能な社会の発展に貢献します。





「母さんの味」を次世代に CO₂42%削減を目標に掲げる

今回は、株式会社ますやみその舩本憲司さん、村田頼弘さんに、脱炭素経営に向けた取り組みについてお話をうかがいました。

ますやみそは、2024年2月にSBT(※)中小企業版の認証を取得しました。取得のためには、企業活動で排出しているCO₂を算出し、毎年4.2%以上の削減を目安として5~10年先の目標設定が必要です。ますやみそでは、2030年までに2022年度基準で42%のCO₂削減を掲げました。

認証取得後、工場の電力を環境負荷の少ないものに切り替え、また、送風機省エネルギーの採用、高効率ボイラーの優先運転、保温カバーの施工によるエネルギー使用量削減など、工場のエネルギー効率を高める対策を行いました。その他、窓の遮熱性向上対策を行うことで空調負荷低減を行いました。焼山工場では電力使用量の見える化を行い、従業員にCO₂排出量削減を意識づけました。本社や営業所は、空調の適切な運用を従来以上に実施しています。営業車については、エコドライブの推進による燃料消

費量の削減、低燃費車両への転換を随時進めています。

今回のSBT認証取得の過程において、省エネに繋がる取り組みがCO₂排出量の削減に直結することが分かり、環境に対する全従業員の意識が飛躍的に向上したそうです。前述の取り組みを継続し実行していくことで、2030年までに会社全体のCO₂排出量1,490.90t-CO₂(2022年対比42%減)の達成を目指しています。

私たちの暮らしに不可欠な食品事業者の取り組みについて、関心を持ち、買う、選ぶことで一緒にCO₂削減を目指しましょう。

※SBT (Science Based Targets) 認証とは
パリ協定と整合性のある温室効果ガス排出削減目標を立てていることを示す国際認証。SBTi (SBT イニシアチブ) によって認定されている。(脱温暖化センターひろしま)



賞状を持つ園尾福山市公衛協会会長



「母さんの味」を次世代にCO₂42%削減を目標に掲げる

福山市公衛協が世界バラ会議に貢献

福山市が感謝状を授与

60年以上にわたり、市民の手で「100万本のバラのまち」を築き上げてきた福山市で、5月18日から24日にかけて「第20回世界バラ会議福山大会」が開催され、多くの人が来場され、バラ公園や市民・学校によるバラ花壇の視察ツアーや専門家による講義、関連イベント「ROSE EXPO FUKUYAMA 2025」では、バラをテーマにした講演や

実演、ファッションショーなどが開催され、盛況のうちに閉会しました。世界バラ会議の開催にあたり、準備や環境の整備、開催運営への協力が評価され、7月に福山芸術文化ホールリーデンドームで開催されたお礼の会において、福山市長から福山市公衆衛生推進協議会に特別感謝状が授与されました。今後とも、行政・団体・住民が一体となって、地域コミュニティを盛り上げる公衛協であり続けることを期待します。(地域活動支援センター)

令和7年度優良安全運転管理者表彰

この度、当協会の横見和信総務課長が、一般社団法人広島県安全運転管理協会から、令和7年度優良安全運転管理者として表彰されました。横見課長は、安全運転管理者として協会内で安全運転の重要性を周知し、交通事故防止に努めてきました。その成果が認められ、今回の表彰に至りました。

当協会は業務で車両を日々使用しますが、今回の表彰を受け、一層安全運転に取り組んでまいります。



(経営管理センター)

日本赤十字社金色有功章授与

この度、当協会は長年にわたり献血活動に取り組んだことが高く評価され、日本赤十字社から「金色有功章」を授与されました。

当協会は、今後も献血をはじめとする社会貢献活動に、積極的に取り組んでまいります。



子ども服の無料譲渡会を開催します

【開催日時】令和7年9月27日(土)、28日(日) 10:00~16:00

【場所】カインズ広島LECT店(広島市西区扇2丁目1-45)

【対象サイズ】新生児~120cm

※サイズアウトした子ども服を回収します。洗濯済みで、傷や汚れのないものをお願いください。(体操服、下着、靴下、水着、布おむつ、制服、おもちゃ、靴、バッグ、雑貨は回収できません。)



【同時開催】「目からウロコのお洗濯講座」①11:00~②14:00~

もっと早く知れたかった、目からウロコの裏ワザ。

これを知れば、明日から毎日の洗濯が楽しくなるはず!!

定員10名、45分間、両日2回開催します。

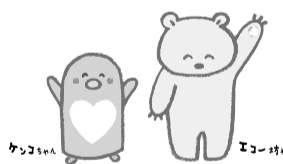
【主催】脱温暖化センターひろしま

【後援】広島県

お申込みはこちらから



令和7年度 地区衛生組織活動資金募集



通称

『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、令和7年度で66回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として、地域社会に役立てられています。

環境・健康募金
総額(円)

18,087,870円

(令和7年7月末実績)



環境協に配分された募金は、以下のような事業に活用しています。

【学習教材貸出事業】

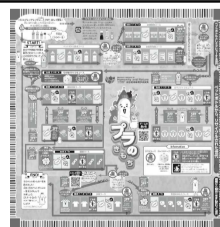
環境づくりや健康づくりに関する各種グッズの貸出をしています。貸出グッズの一覧は、当協会ホームページからご覧いただけます。
(<http://www.kanhokyo.or.jp>)

NEW

プラのきもちゲーム

PETとして誕生した参加者が、ペットボトルの一生を体験するすごろくゲームです。

(提供: 総合地球環境学研究所)



市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
府中町	787,650	59.0
海田町		
熊野町	1,405,400	106.1
坂町		
江田島市	1,573,750	98.0
竹原市		
大崎上島町		
大竹市	1,398,140	61.8
廿日市市	1,844,871	56.7
廿日市市大野		
廿日市市佐伯	198,906	61.6
廿日市市吉和		
廿日市市宮島	176,200	94.8
安芸太田町		
北広島町		
安芸高田市	678,200	38.2
東広島市		
三原市	1,086,220	74.8
世羅町	140,180	19.1
尾道市	1,887,400	45.3
福山市	6,850,500	82.3
府中市		
神石高原町		
三次市		
庄原市		
その他	60,453	99.9
合計	18,087,870	40.8

市町別一覧表

※この表は、令和7年7月末日現在、各市町公衛協から募金委員会に報告のあった募金額を記載しています。